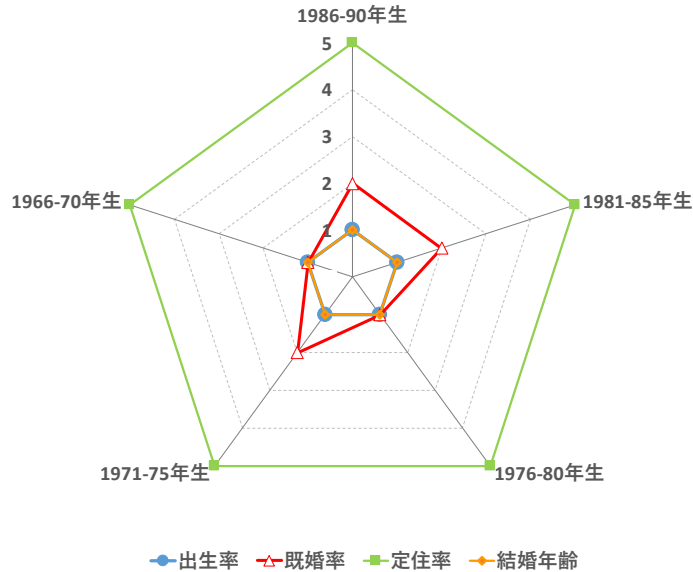


## (1) 新潟市

### ①出生に関する総合評価

図1-1 コホート別総合評価



注：各コホート別の新潟県30市町村内の順位を5段階で評価している。

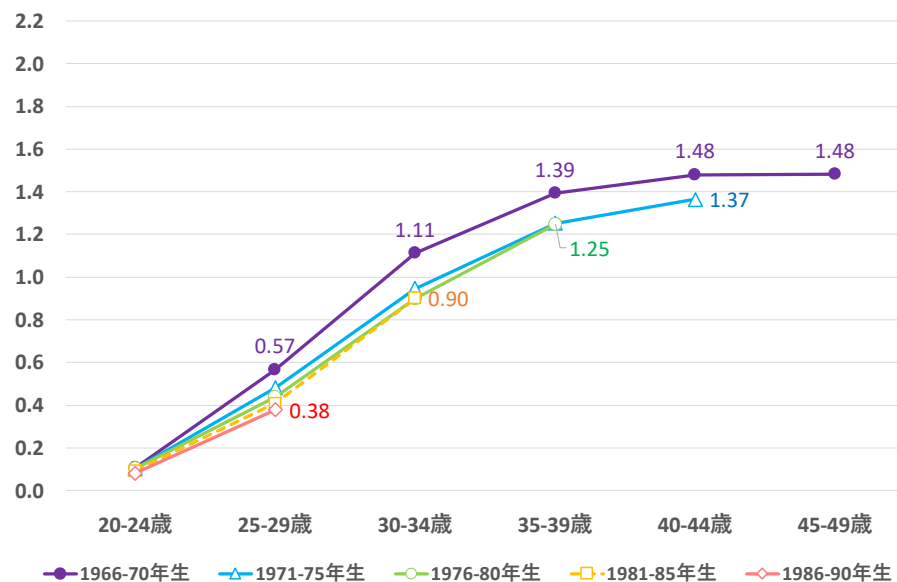
1. 合計出生率は、すべてのコホートで最下位(目盛り1)である。
2. 女性既婚率は、1966-70年生まれと1976-80年生まれは最下位(目盛り1)であるが、1971-75年生まれ、1981-85年生まれと1986-90年生まれは下位(目盛り2)である。
3. 女性定住率は、すべてのコホートで最上位(目盛り5)である。
4. 女性結婚年齢は、すべてのコホートで最下位(目盛り1)である。

### 【総合評価】

1. 新潟市では、定住率が全コホートで最上位であり、若年女性人口が0-4歳時点の水準で維持されている。他方、女性既婚率は全コホートで下位以下であり、結婚年齢は最下位である。そして、合計出生率は全コホートで県内最低水準にある。新潟市は県の中心都市で（東京圏と地方圏の関係のように）若年女性人口を惹きつけているにもかかわらず、超低出生率が続いていることが、県内全体の人口減少、出生数の減少を招く要因となっている。
2. 1980年代生まれは、25-29歳までの合計出生率がそれ以前のコホートよりもさらに低下しているが、これは20-34歳の女性の社会進出が進み、女性就業率のM字カーブが消滅していることと関係しているかもしれない。
3. 1990年代生まれの女性も同様の行動をとるならば、社会制度や男性の行動等を一定とすれば、ますます多くの若年女性が就業と結婚、出産・子育ての間で、より難しい選択をしていかなければならない。多くの若年女性を抱える新潟市には特に先駆的な取組みが求められる。

## ②コホート合計出生率

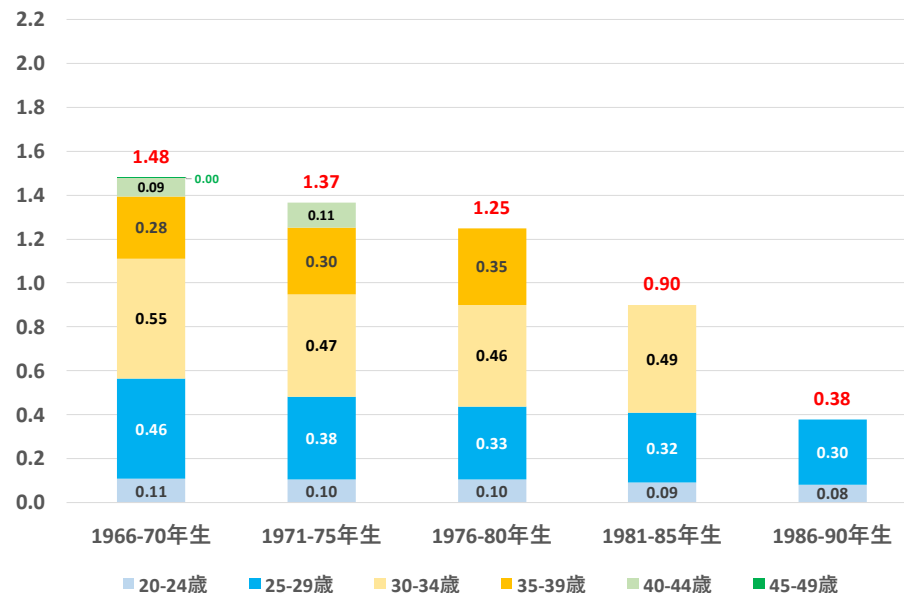
図 1-2 コホート合計出生率の推移



注：新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 1-2 は、コホート合計出生率の推移を示している。
- ・ 新潟市は 1966-70 年生まれからコホート合計出生率が県内で最も低く、それ以降のコホートでも合計出生率が低い。
- ・ 県内他市町村と同様に、25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に合計出生率の大幅な低下がみられる。しかし、1971-75 年生まれ以降のコホート間の差は小さい。

図 1-3 コホート合計出生率の年齢区分別内訳

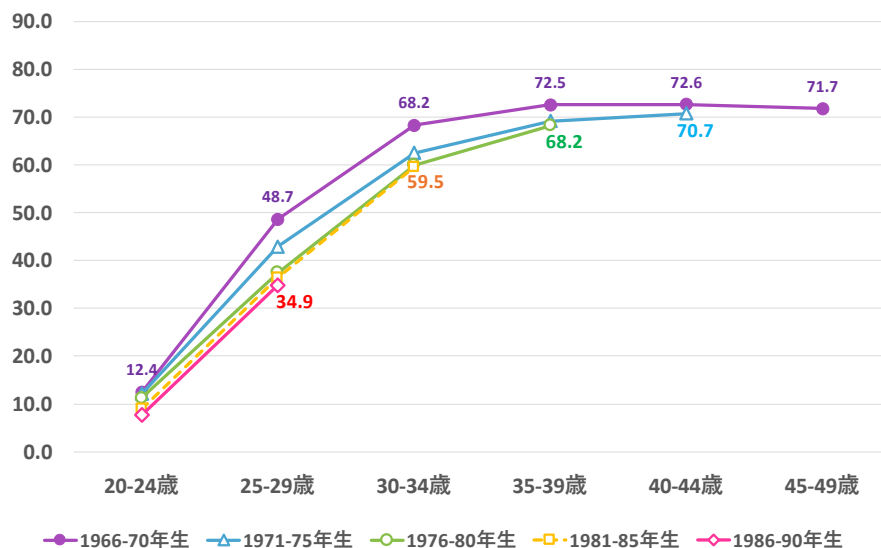


注：新潟県「福祉保健年報」より作成。四捨五入のため内訳の計と合計が一致しない場合がある。

- ・ 図 1-3 は、コホート合計出生率の年齢区分別内訳を示している。
- ・ 20 歳代の出生数は、1966-70 年生まれコホートの 0.57 人に対して、1986-90 年生まれは 0.38 人に減少している。30 歳代では 1966-70 年生まれの 0.83 人に対して、1976-80 年生まれは 0.81 人にわずかに減少している。
- ・ 晩婚化のため 20 歳代の出生率が低下しているが、30 歳代でも 1 人が生まれておらず、低下傾向が続いている。
- ・ 子どもが産まれる確率が最も高い 25-34 歳の出生数は、1971-75 年生まれから 1 人を下回っており、1981-85 年生まれは 0.81 人に減少している。

### ③コホート別既婚率

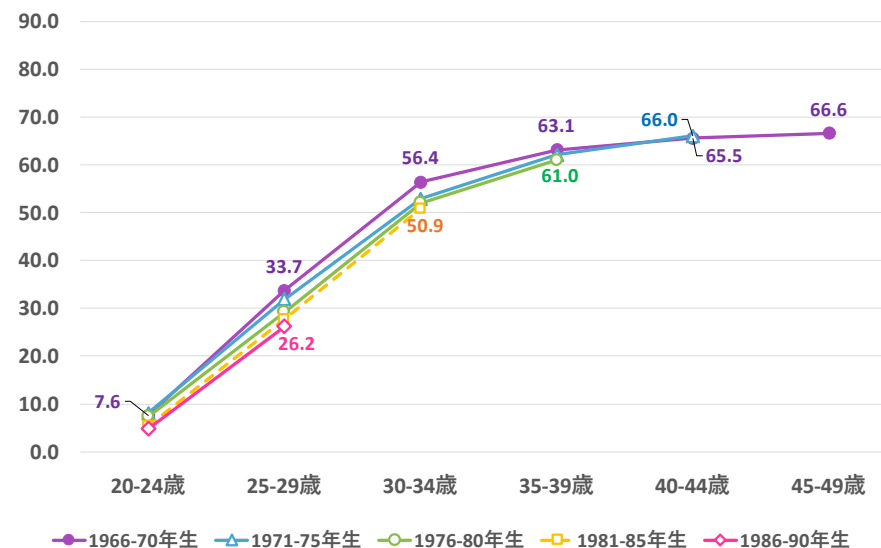
図 1-4 コホート別既婚率の推移(女性) 単位：%



注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 1-4 は、コホート別の到達年齢までの女性既婚率の推移を示している。
- ・ 25-29 歳以降で、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれ以降の間に既婚率の大幅な低下がみられる。さらに、1971-75 年生まれとそれ以降のコホート間でも、25-29 歳と 30-34 歳時点の低下がみられる。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれの 48.7% から 1986-90 年生まれは 34.9% へと 13.8 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 72.5% から 1976-80 年生まれは 68.2% へと 4.3 ポイント低下している。

図 1-5 コホート別既婚率の推移(男性) 単位：%

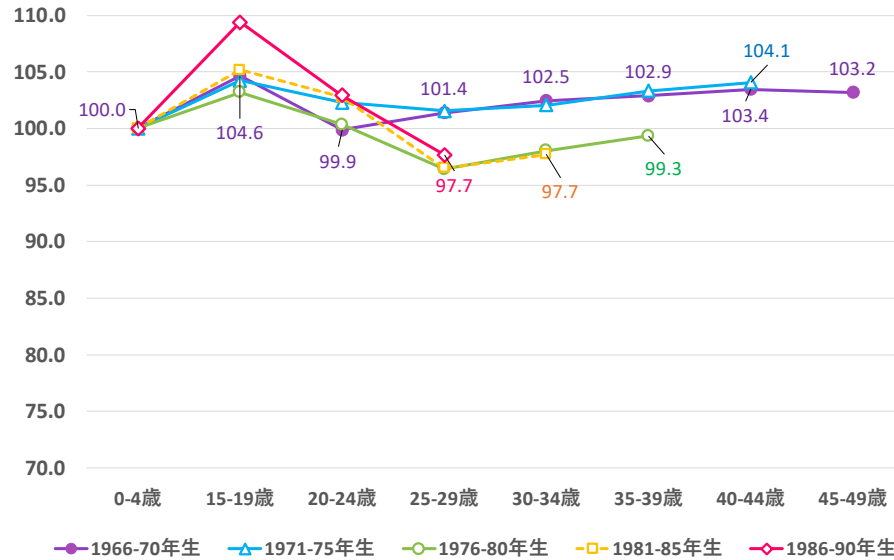


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 1-5 はコホート別の到達年齢までの男性既婚率の推移を示している。
- ・ 男性既婚率も女性同様に最近のコホートほど低下する傾向が確認できるものの、女性既婚率と比較して、コホート間の差が小さい。
- ・ 25-29 歳の既婚率は、1966-70 年生まれは 33.7%、1986-90 年生まれは 26.2% と 7.5 ポイント低下し、35-39 歳の既婚率は 1966-70 年生まれの 63.1% から 1976-80 年生まれは 61.0% と 2.1 ポイント低下している。
- ・ 女性既婚率は 40 歳代で 70% に達するが、男性は 60% 台半ばに止まり、男性既婚率のほうが低い傾向がある。

#### ④コホート別女性定住(残存)率

図 1-6 コホート別女性定住率 単位：人口指数

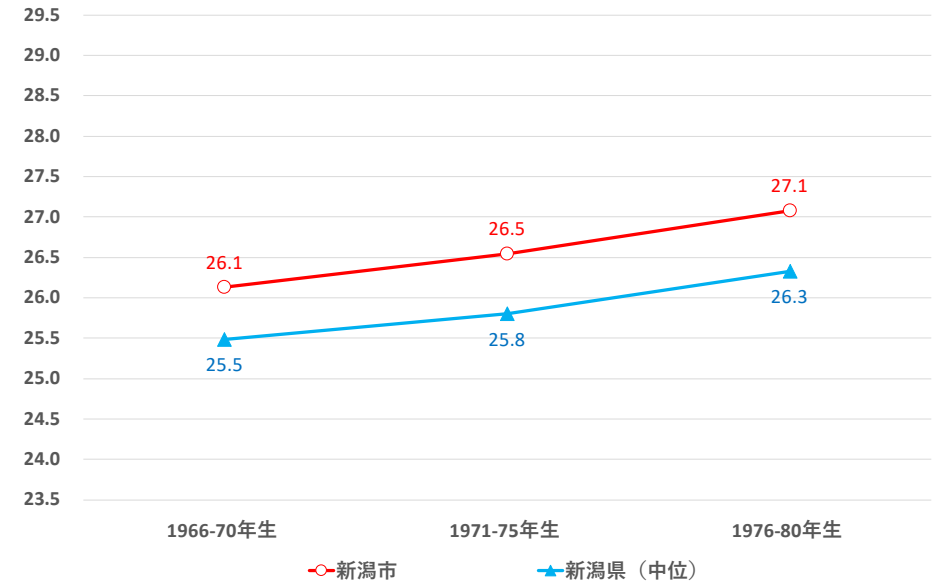


注：0-4歳人口=100。「国勢調査」より作成。

- ・ 図 1-6 はコホート別の到達年齢までの定住率の推移を示している。
- ・ 25-29歳における女性定住率は、1966-70年生まれの101.4から1986-90年生まれは97.7に3.7ポイント減少しており、35-39歳における女性定住率は、1966-70年生まれで102.9から1976-80年生まれは99.3に3.6ポイント減少している。
- ・ 新潟市では、25-39歳時で見ると、1971-75年生まれまでは100を超えていたが、1976-80年生まれ以降は100を下回るようになった。

#### ⑤コホート別女性平均結婚年齢

図 1-7 女性平均結婚年齢 単位：歳

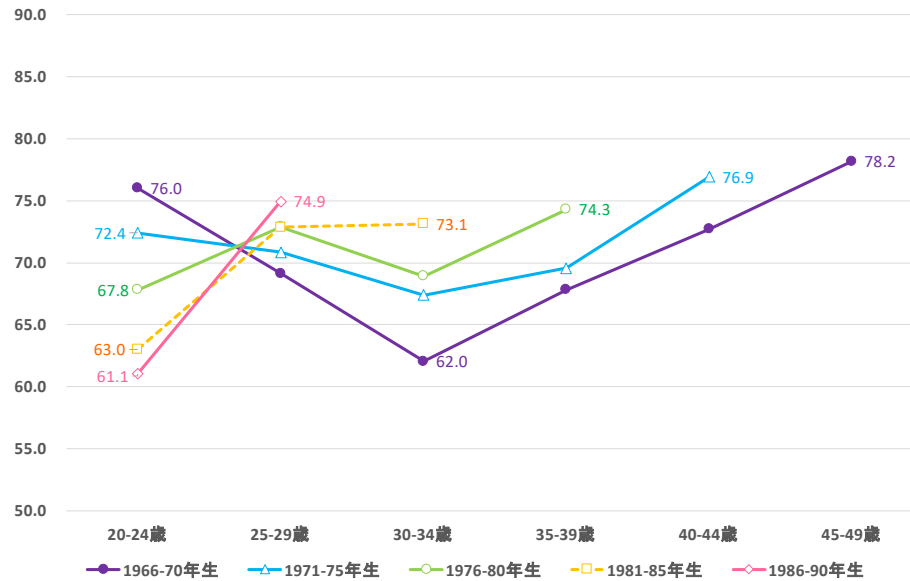


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 1-7 はコホート別の35-39歳までの女性平均結婚年齢を示している。
- ・ 1966-70年生まれ、1971-75年生まれ、1976-80年生まれの35-39歳までの女性平均結婚年齢は、それぞれ26.1歳、26.5歳、27.1歳である。1966-70年生まれと比べて、1976-80年生まれは1歳だけ平均結婚年齢が遅れている。
- ・ 1966-70年生まれの県内順位は30位、1971-75年生の県内順位は28位、1976-80年生は27位と、新潟市は平均結婚年齢が県内で最も遅い自治体の一つである。

## ⑥コホート別女性就業率

図 1-8 コホート別女性就業率 単位：%

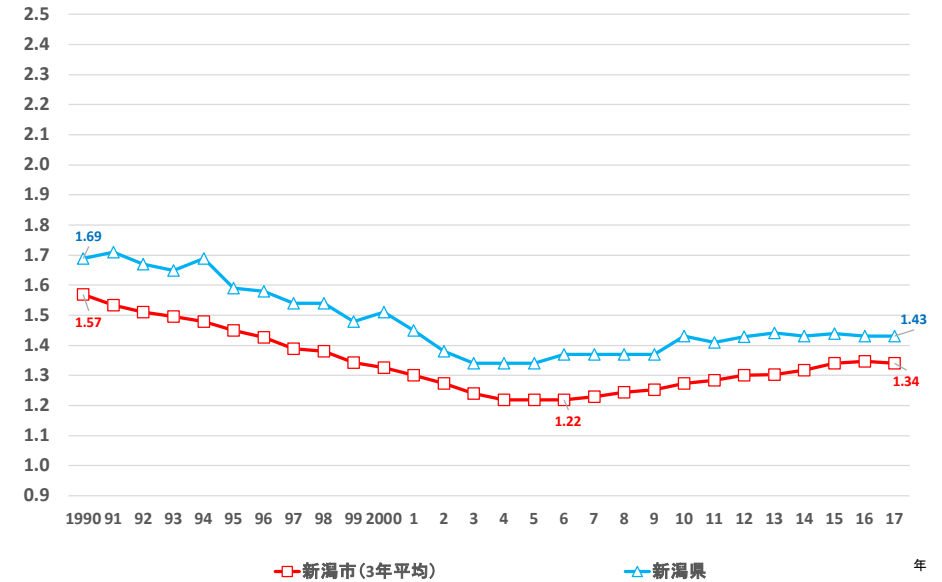


注：「国勢調査」より作成。

- ・ 図 1-8 はコホート別の女性就業率の推移を示している。
- ・ 20-24 歳から 25-29 歳までの女性就業率の変化を見ると、1966-70 年生まれと 1971-75 年生まれのコホートは低下しているのに対し、それ以外のコホートでは上昇している。
- ・ 30-34 歳の女性就業率を見ると 1966-70 年生まれは 62.0%であったのに対して、1981-85 年生まれは 73.1%に上昇している。
- ・ 1970 年代生まれまでは M 字カーブが確認されたが、1981-85 年生まれコホートでは 30-34 歳時点で M 字の底が確認されない。

## ⑦期間合計特殊出生率

図 1-9 期間合計特殊出生率の推移



注：市町村の出生率は 3 年間の移動平均値である。新潟県「福祉保健年報」より作成。

- ・ 図 1-9 は、1990 年から 2017 年までの新潟県平均と新潟市（3 年平均）の期間合計特殊出生率の推移を示している。新潟県平均は 1990 年の 1.54 から低下してきたが、2003-05 年の 1.34 を底に 2017 年には 1.43 まで改善している。
- ・ 1990 年以降でみると、新潟市の期間合計特殊出生率は一貫して新潟県平均より低く、期間平均では 0.14 ポイント低い。